

令和7年度国際水準GAPガイドライン普及促進事業

GAP 指導事例

一般社団法人全国農業改良普及支援協会

はじめに

一般社団法人全国農業改良普及支援協会では、国際水準 GAP ガイドラインの普及促進を図るため、農林水産省補助事業により、令和4年度より「国際水準 GAP ガイドライン普及研修」を実施しています。

このたび、今年度事業の一環として、GAP 指導に関わる皆様への参考指導資料として、今年度標記研修受講者に協力願い、普及指導員や JA 営農指導員による管内及び広域での現地活動における GAP 指導事例集を作成いたしました。

GAP 指導に関わる指導資料として、活用の程、お願いいたします。

目次

Contents

普及指導員活動事例

柿産地における「ぎふ清流 GAP」の指導活動（岐阜県大野町）
岐阜県農政部農産園芸課ぎふ清流 GAP 推進係（岐阜市駐在）……………2

普及指導員活動事例

作業場の巡回による異物混入防止対策（JA 西三河いちご部会）
愛知県西三河農林水産事務所農業改良普及課西尾駐在室……………4

普及指導員活動事例

水稻栽培における熱中症対策指導（舞木環保米組合）
愛知県西三河農林水産事務所農業改良普及課岡崎駐在室……………6

県域活動事例

ホクレンにおける GAP 認証支援の取組
ホクレン農業協同組合連合会内部統制管理部 山田将崇……………8

県域活動事例

「みやぎ GAP 推進アドバイザー」による県内での指導活動
宮城県農政部みやぎ米推進課……………10

県域活動事例

団体認証事務局における構成員への指導活動
グリーン近江農業協同組合営農事業部特産課……………12

県域活動事例

「美味しまね認証」取得を計画的に進める調査票（2シート）の開発
島根県農林水産部農業技術センター……………14



柿産地における「ぎふ清流GAP」の指導活動(岐阜県大野町)

所属

岐阜県農政部農産園芸課ぎふ清流GAP推進係(岐阜市駐在)

普及指導員活動事例

主な活動内容

1 ぎふ清流 GAP への取組

- (1) 柿産地の高齢化・担い手の不足により産地が年々縮小傾向。持続可能な柿生産を継続実施するには、GAPの手法、考え方が不可欠。
- (2) 柿産地を維持していくため、「経営改善による計画的で安定した柿経営」を推進していく必要。
- (3) 柿の安全・安心を市場等、外部へPRしていく必要。
 - ・(1)から(3)の理由により、大野町柿振興会(以下、振興会)において、ぎふ清流GAPへの取組を振興会役員及び技術部会員を中心に実施。

2 GAPの概要、取組方法について振興会に対して情報提供。

3 ぎふ清流GAPの評価を受けるための個別支援を実施。

指導先の概要

- ・GAPの種類：ぎふ清流GAP
- ・評価実施年：令和4年～令和6年
- ・品目名：柿
- ・評価を受けた面積：12.4ha

- ・GAP評価件数：令和4年：ぎふ清流GAP農場評価 3件
令和5年：ぎふ清流GAP農場評価 3件
ぎふ清流GAP組織評価 1件
令和6年：ぎふ清流GAP農場評価 4件

- ・振興会の会員(生産者)数は342戸、栽培面積は118haで、JA共販による市場出荷が中心。
- ・振興会技術部会は、柿の栽培技術向上に関する地域の代表で組織された部会で、GAPの取組の中心となり、GAPを実践している。



活動、指導のポイント

1 ぎふ清流 GAP へ取り組む目的を明確化

- ・ GAP 取組の目的を「経営改善による計画的で安定した柿経営」とし、振興会役員会、振興会技術部会に対し、ぎふ清流 GAP への取組について情報提供した。

2 振興会役員、技術部会員を中心に GAP の取組を推進

- ・ JA と連携し、振興会役員会、月 1 回開催される技術部会で GAP の取組による経営改善効果、どのように GAP に取り組むのか具体的に説明。
- ・ 振興会役員、技術部会員を中心に R4 から年間 3 人程度、ぎふ清流 GAP の評価を受けるよう誘導、GAP の取組の個別支援を実施。
- ・ R5 に事務局（JA）が、「振興会」として組織評価を受け、ぎふ清流 GAP の取組が本格化した。

3 末端の会員への GAP に関する情報提供

- ・ 振興会の会員数は 300 名以上と多く、末端の会員にまで GAP の取組について周知する必要がある、月 1 回配布される柿管理報に GAP 取組に関する情報を毎回記載し全会員へ配布した。
- ・ 年 1 回発行される振興会機関誌に、GAP の取組による経営改善の例を記載し、全会員へ配布・情報提供を行った。



農場評価の様子



危険個所の表示の説明



作業場の巡回による異物混入防止対策(JA西三河いちご部会)

所属

愛知県西三河農林水産事務所 農業改良普及課 西尾駐在室

普及指導員活動事例

主な活動内容

JA 西三河いちご部会では過去に発生した異物混入の再発防止対策として、部会役員、JAの指導員及び県農業改良普及課から「巡回チーム」を結成し、部会員全員のパック詰め場の巡回指導を行っている。2年周期で全ての部会員を巡回できる仕組みとしており、部会役員と巡回チームがチェックシートを用いて確認するとともに、巡回した箇所を写真にとって記録している。この取組を開始して以降、異物混入クレームは起きていない。また、巡回指導において記録した写真データについては、新規就農者への事例紹介などにも活用されている。

指導先の概要

GAPの種類： -
認証の取得年： -
品目名：イチゴ
面積：18ha

部会員80名で県下トップレベルの販売金額を誇る産地であり、名古屋市場を中心に県内外に出荷を行っている。集荷は各部会員がパック詰めしたものをJA集荷場に持ち込み、担当部会員が検査員となり出荷検査を行った上で市場に出荷している。

産地規模維持に向け、令和元年度より「いちごスクール」を開講し、毎年新規栽培者を確保している。現在まで19名が就農し、産地規模の維持がされ若手生産者が増えている。収量向上に向けスマート農業などにも積極的に取り組み、成果を上げている。



いちごスクールの様子

活動、指導のポイント

【取組の特徴】

- ・巡回で使用するシートは愛知県版 GAP である「やろまいシート」の食品安全に係る部分等をもとに JA、普及課が作成。
- ・巡回は部会役員、JA、農業改良普及課がチームを組んで実施。
- ・毎年半数の部会員を対象に巡回を行い、2年周期で全部会員のパック詰め場を巡回（取組の継続性を優先）
- ・撮影した写真は巡回後に部会役員全員で確認し、指摘漏れがあれば担当役員が個別指導。

【取組の成果】

- ・取組以降、異物混入クレームは起きていない。
- ・掲示などに利用されていた「画鋲」は使用されなくなり、蛍光灯から LED への切り替えが進む。
- ・巡回で撮影した写真は、「いちごスクール」の研修生の事例集としても活用。

【今後の課題】

- ・優良事例の周知、作業性の評価など部会内での活用方法の検討するなど取組のマンネリ化防止が必要。

やろまいシート 国際水準 GAP 版（青果物） ※スプラウト類及びきのこと類は除く

農場名 _____
 チェック日 _____

No.	取組内容	野菜・果樹	野菜（鶏地） 果樹	施設	チエック欄	「国際水準 GAP ガイドライン」への対応		
						番号	区分	分野
1	農場経営に必要な基本情報である栽培品目名、ほ場の名称・所在地、面積等を記載した台帳を整備している。	●	●	□	1	I 経営体制全体	農場経営管理	
2	施設の名称・所在地、機械の概要を記載した台帳を整備している。	●	●	□	1	I 経営体制全体	農場経営管理	
3	食品安全、農薬の扱い、管理等に関する情報の蓄積、農場の周知した	●	●	□	1	I 経営体制全体	農場経営管理	



パック詰め巡回の様子



写真確認の様子



水稲栽培における熱中症対策指導(舞木環保米組合)

所属

愛知県西三河農林水産事務所農業改良普及課岡崎駐在室

普及指導員活動事例

主な活動内容

舞木環保米組合は、岡崎市東部で化学肥料、化学農薬の使用量削減に取り組む水稲生産者の団体である。除草剤を極力使用しない栽培方法を実践しているため、刈払機による夏季の草刈り、手取り除草を実施しているため、作業中に熱中症となるリスクがある。加えて、単独作業が主体となるため、農作業事故発生時の対策の遅れが懸念される。そのため、栽培研修会において、GAP 指導員による熱中症対策や、農作業安全の注意喚起を行っている。



農作業安全指導



熱中症に留意しながらほ場を観察

指導先の概要

GAP の種類： -

認証の取得年： -

品 目 名：水 稻

面 積：63a

高齢化に伴い、会員は減少傾向で、令和7年現在、会員2名が緑肥（レンゲ）を活用することで、化学肥料削減、化学農薬削減の取組を実施している。生産物は、JA グループ愛知が取り組む環境負荷低減農産物認証である「いきいき愛知」を取得した生産物として出荷されている。会員は小規模経営体であるため、環境負荷低減と経営性を維持することが重要である。

活動、指導のポイント

【指導のポイント】

- ・夏季作業時の熱中症、農業機械による事故は被害が大きく、頻度が高いリスクである事を強調。
- ・県内での死亡、重傷事故の経緯を紹介し、事故の防止、被害の低減に必要な行動を考える機会を創出。
- ・GAP 指導員が実践している熱中症防止方法を紹介し、実施可能な対策から行う事の重要性を強調。

【取組の成果】

- ・令和6、7年度において熱中症による被害の報告なし。
- ・空調服の活用、こまめな水分補給など熱中症対策の意識が醸成された。

【今後の課題】

- ・農作業事故発生リスク低減に取り組む意識の醸成。

農作業事故は 決して 他人事ではありません!

農作業事故件数は減少したものの、死亡事故は倍増(4件→8件)

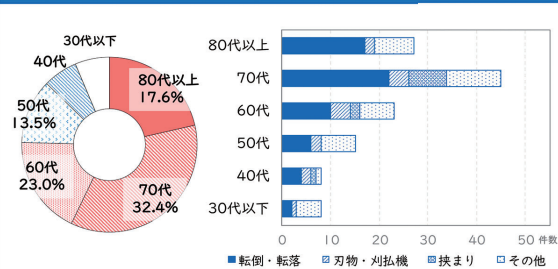
死亡	重症	中等症	軽症・被害無	計
8	21	14	107	150

令和6年1月～12月に発生した農作業事故 ※愛知県農業経営課調べ

※農作業事故の区分は、重症が入院3週間以上の事故、中等症は入院3週間未満の事故、軽症は入院なし

年代	事故の状況/農業機械の操作中は重大事故になりやすい!
80代	農道から水路に落下し、トラクターのロータリー部に巻き込まれ、死亡。
80代	後進作業で後方に転倒し、自身の上に耕耘機が乗って重症。
70代	小型運搬機の運転席と荷台の間に挟まれ、死亡。
70代	ビニール自動開閉装置に両上肢が巻き込まれている状態で発見。死亡を確認。

60代以上で事故が多い! 転倒・転落に特に注意!



愛知県農業水産局農政部農業経営課環境・補防・肥料農業取締グループ
名古屋市中区三の丸3-1-2(〒460-8501)
電話 052-954-6411(ダイヤルイン) FAX 052-954-6931
E-mail nogyo-keiei@pref.aichi.lg.jp



農作業中の熱中症を予防しましょう!!

※画像引用元:農林水産省

- 愛知県内で令和7年5月に80代の方が農作業中の熱中症により亡くなっています。
- 熱中症は正しい知識を身につけることで、適切に予防することが可能です。

暑さを避ける

高温時の作業は極力避け、日陰や風通しのよい場所で作業



こまめに休憩・水分補給

喉の渇きを感じる前に、こまめに水分・塩分を補給



単独作業は避ける

複数人で作業を行う、時間を決めて連絡をとり合う



熱中症対策アイテムの活用

空調服・ネッククーラー



- 令和7年6月1日から労働者を雇用する事業者は以下の熱中症対策をとることが義務化されています。
- ①早期発見・報告するため、連絡先などを定め体制を整備。
- ②重篤化を防止するための措置の手順を作成。
- ③これらを関係作業者へ周知しておくこと。

熱中症警戒アラート等のサービスも活用しましょう



農作業事故を防ぐため、もう一度確認!

国際水準GAPでも5分野のうちの一つが「労働安全」

- ひとりでの作業はできるだけ避けましょう。
- 休憩をこまめに取り、ゆとりを持って作業をしましょう。
- 水分をとって熱中症に注意しましょう。
- 危険箇所の確認・改善・整備を行いましょう。
- 安全に作業を行うための服装・保護具の着用・管理をしましょう。
- 農業機械、装置、器具は取扱説明書をよく読み、適正に使用しましょう。
- 機械の点検・清掃はエンジンを止めてから行いましょう。



ホクレンにおけるGAP認証支援の取組

所属 ホクレン農業協同組合連合会 内部統制管理部 / 山田将崇

県域活動事例

主な活動内容

JAグループは、持続可能な農業経営の確立に向けて、営農活動のリスク管理および経営改善の強化し、営農を発展させていくため「よりよい営農活動」～GAP手法を活用した営農の実践～をグループ全体の取り組みとして広げていくことを方針としている。

JAグループ北海道は、全国の取り組みに準じて方針を「国際水準GAPに取り組む」と整理し、将来的な目指す姿の実現に向けて取り組んでいくこととしている。

ホクレンは、JAグループ北海道の一員として「国際水準GAPをする」「人材育成」「GAP認証をとる」の3つの事項からなる「国際水準GAPに取り組む」を推進している。

みどりの食料システム戦略を踏まえた環境負荷低減と農業所得向上の両立へ向けた取り組み「ホクレンSDGs方針」では、「産地におけるGAPの導入と運用支援」を重点取組項目のひとつに設定し、「国際水準GAPに取り組む」をSDGsの取り組みと一体的に実践・推進している。

JAグループ北海道におけるGAP取り組み方針

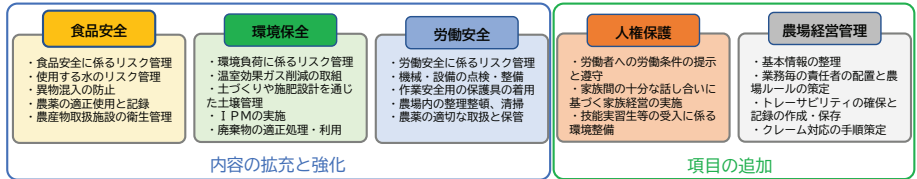
— 持続可能な農業経営・産地の確立を目指す —

将来的な
目指す姿
継続

JAグループ北海道として国際水準GAPに取り組む

- ▶ 認証取得の有無は関係なく「国際水準GAPをする」ことを基本
- ▶ 「GAP認証をとる」は販売戦略上の選択肢
(必要に応じて意欲のある産地の第三者認証取得の取組みを支援)

<国際水準GAPの5分野>



取組方針

JAが行う「GAP手法を活用した営農指導」の実践を支援
環境調和型農業・SDGsの取り組みと一体的に実践・推進

具体的な
取組事項
継続

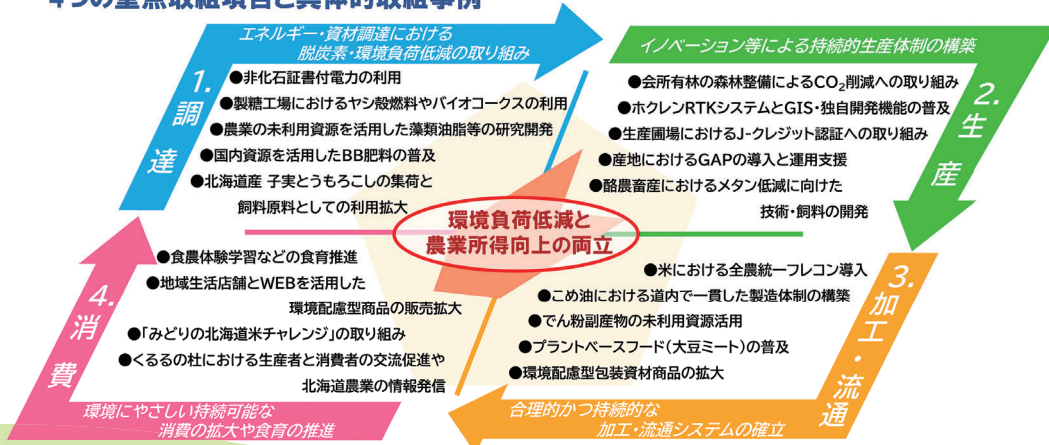
- ① 「国際水準GAPをする」への対応
 - ・北海道米あんしんネットGAPやJAグループ北海道畑作物GAP(=系統GAP)の継続と拡充
 - ・GH農場評価制度の周知と活用を推進
- ② 人材育成
「GAP手法を活用した営農指導」を行うためGAP指導員やGH農場評価員を育成
- ③ 「GAP認証をとる」への対応
実需者ニーズへの対応および販売力強化・販路拡大に向けた選択肢として位置づけ認証取得を支援する体制整備に向けて具体的な検討を実施

複数年をかけた段階的な実践(～2027年度)

ホクレンSDGs方針

みどりの食料システム戦略をふまえ、
環境負荷低減と農業所得向上の両立に向け取り組みます。

4つの重点取組項目と具体的取組事例



指導先の概要

《「GAP 認証をとる」の取り組み事例》

GAP の種類：JGAP（団体）
認証の取得年：令和7年
認証農場名：MORE ベジット
事務局：ながぬま農業協同組合
 青果部 青果課
品目名：はくさい
対象農場数：9農場



令和6年春より、ながぬま農業協同組合（JA ながぬま）の認証取得支援事業を開始した。支援事業には、農業改良普及センターより普及指導員も参加した。実地支援として、マニュアル制作の指導や生産者勉強会（リスク評価）、模擬内部監査（OJT）など、事務局の取り組み進捗に応じたプログラムの提案により実施した。リモート支援として、マニュアルや記録・帳票類の検証、監査・審査までの準備項目の洗い出しやスケジュール策定の指導を実施した。MORE ベジットは、JA ながぬまの青果物生産組織を生産者および JA 職員職員の運営に係る負担軽減と業務の効率化を目標に再編された協議会として、GAP 手法を活用した営農の実践と継続的な改善活動に取り組もうとしている。

活動、指導のポイント

ホクレンの主な取り組み

- | | |
|---------------|----------------------------|
| ①「国際水準GAPをする」 | ● 系統GAPチェックリストの制作と品目部会への提供 |
| ② 人材育成 | ● GAP動画学習プログラムの制作・公開 |
| ③「GAP認証をとる」 | ● JAグループ北海道GAPセミナーの開催 |
| | ● GAP団体認証取得を希望するJAへの支援 |
| | ● 認証取得JAの情報交換会の開催 |



YouTube
GAP 概論・
GH 農場評価
制度編



YouTube
系統 GAPCL 編

《GAP の理解醸成へ向けた取り組み》

- ・系統職員が「よりよい営農活動」～ GAP 手法を理解し生産現場での自己点検・検証・改善活動を円滑に進めるための「JA グループ北海道 GAP セミナー」を開催している。
- ・「系統 GAP チェックリスト（生産者自己評価）」を制作、品目対策本部委員会へ提供すると共に運用支援に努めている。
- ・GAP 概論や GH 農場評価制度の理解、系統 GAP チェックリストの解説について「GAP 動画学習プログラム」を制作・公開している。

《GAP 認証をとるの支援～団体認証取得 JA のアフターフォロー》

- ・認証の維持・更新に係る課題や効果的な取り組みの共有を通じて、改善や効率化の契機とするための情報交換会を開催し、アフターフォローの体制構築に努めている。



「みやぎGAP推進アドバイザー」による県内での指導活動

所属 宮城県農政部みやぎ米推進課

県域活動事例

主な活動内容

- ・本県運営の基本的な指針である「新・宮城の将来ビジョン」実施計画に掲げる GAP の推進に向け、関係団体等と取組を円滑に推進するため「宮城県 GAP 推進会議」を設置、運営している。
- ・国際水準相当の GAP に取り組む、あるいは取り組みたい農林業者の課題解決に必要な助言・指導を行う「みやぎ GAP 推進アドバイザー」を設置し、派遣している。
- ・消費者や実需者の食の安全に対するニーズへの対応や、生産者の農業生産活動の持続性を確保するため、「みやぎ農場 GAP 取組支援制度」を創設し、生産者の取組を支援している。

指導先の概要

GAP の種類：JGAP

認証の取得年：令和 8 年 8 月予定

品 目 名：いちご

面 積：110a

- ・輸出にも取り組む当該いちご生産法人から、第三者認証 GAP の取得に関し県へ相談があったため、担当農業改良普及センター職員とともに聞き取りを実施。
- ・みやぎ GAP 推進アドバイザーを派遣し、取得までの流れや取得によるメリット等、法人の意向に沿った助言・指導を実施。



みやぎ GAP 推進アドバイザーによる指導

活動、指導のポイント

《国際水準 GAP の取組拡大》

- ・ 県内各農業改良普及センターと協力して生産者の GAP に係る要望や相談内容を共有し、必要に応じて「みやぎ GAP 推進アドバイザー」を派遣している。
- ・ 農業改良普及センターに配置されている GAP 指導員等による現地指導を通じて、生産者の国際水準 GAP への理解度を高めている。
- ・ みやぎ農場 GAP 取組支援制度では、国際水準 GAP ガイドラインに準拠した実践点検シートを用いて生産者の GAP 理解度の向上を図るとともに、「する GAP」を推進している。
- ・ 生産者の GAP に関する理解醸成を図るため、研修会等を開催し理解度を深めてもらうとともに、県や関係団体の支援体制を紹介している。



生産者向け GAP 研修会の開催



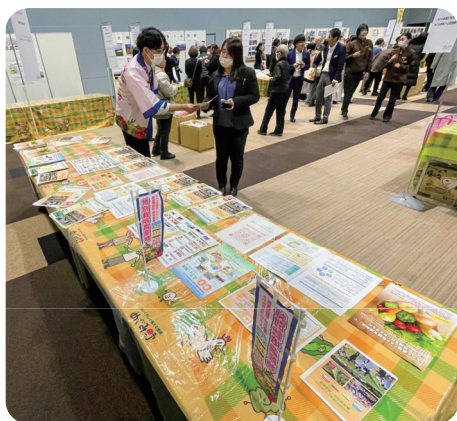
模擬審査を活用した指導者養成研修

《GAP 指導員の育成・指導力向上》

- ・ 関係団体と協力し、GAP 指導員の資格研修会を企画・開催して指導員の育成を図っている。
- ・ 認証取得農場の内部審査や本審査を研修会に位置付けて普及指導員等に公開し、GAP 指導員の指導力向上を図っている。

《国際水準 GAP の周知及び認知度向上》

- ・ GAP 教育の推進のため、県内農業高等学校 2 校に対し、GAP 認証取得及び維持に向け、内部審査における指導者派遣や審査対応支援を行っている。
- ・ 消費者の GAP に関する理解を促進するため、大手量販店等において GAP の取組理解促進にかかる PR や GAP に取り組み生産した農産物の販売会を行っている。



消費者交流会での GAP の PR



大手量販店での GAP 農産物販売会



団体認証事務局における構成員への指導活動

所属 グリーン近江農業協同組合 営農事業部 特産課

県域活動事例

主な活動内容

JGAP 認証団体事務局として、構成員への取組内容の説明や現地指導、作業記録等の書類作成の補助、内部監査・審査の立ち会いなど、団体事務局としての業務と内部監査員や現場営農指導員の指導とサポートを実施。



現場指導の様子

巡回チェックシート(農場用)

日付 : 2025年 月 日

農場名 : _____

倉庫全体	選択する			コメント欄
倉庫内など、作業する時やその他危険力を把握できているか？	はい	いいえ		
肥料・農薬・油・収穫物の保管場所は、交差汚染のされない状況か？	はい	いいえ		
農作業中のトイレについては、どこを使用しているか？	倉庫のトイレ	家のトイレ	その他	
手洗い場所は確保できているか？	はい	いいえ		
倉庫を掃除する用具はあるか？	はい	いいえ		

資格関係	選択する			コメント欄
フォークリフトを使用する際は、免許は所持しているか？	はい	いいえ		
トラクターを使用する際は、大型特許免許は所持しているか？	はい	いいえ		
作業担当の16歳未満の者がいるか？	はい	いいえ		

指導先の概要

GAP の種類 : JGAP

認証の取得年 : 2025 年

品 目 名 : キャベツ・玉葱

面 積 : キャベツ : 約 3,330a

玉 葱 : 約 209a

活動、指導のポイント

《外部講師による団体認証に関する研修の実施》

JA 全中の職員を外部講師として招聘し、構成員への GAP の必要性等に関する研修を実施。その後、希望者による GAP の取組を開始した。JGAP の団体認証における管理点と適合基準に関する書類の作成や必要事項について、事務局で整理、準備し、構成員へ配布を行った。構成員は当該書類を用いて取組を進め、事務局がその取組への指導を行った。

併せて、研修を受けて、団体事務局における内部監査指導補佐役や内部監査員について増員を行い、同様に JGAP の団体認証における管理点と適合基準に関する理解と知識の習得を行った。

《団体事務局として活動する上でのポイント》

団体事務局として活動していく中で、各関係機関や GAP 指導員等も含めて1人ではなく、複数人で GAP の指導に取り組むことが重要。

特に、JGAP の団体認証の取得に取り組む際には、団体事務局及び構成員にとって、お互いに初めての取組であったため、当初は、構成員から、GAP 取組に対する不安や必要性への疑問などが見受けられた。

団体事務局として指導するに当たって、まずは、GAP に対するネガティブなイメージを払拭することを目標に、構成員との会話を重点的に行い、GAP を身近なものとして捉えてもらえるよう、普段の取組をベースにできるところから改善していく、といった形で柔軟な指導を行い、指導側も GAP について勉強しながら、お互いに GAP 認証の取得に向けて準備を行った。

実際に、内部監査や審査を受けて、不適合が付いてもそれがダメなことだと認識するのではなく、不適合が付いたら改善すれば良いというように、団体事務局としても構成員としてもポジティブに受け止めて、指導や取組を行い、JGAP の団体認証を取得した。



認証審査の様子





「美味しまね認証」取得を計画的に進める調査票(2シート)の開発

所属 島根県農林水産部農業技術センター

県域活動事例

主な活動内容

GAP 認証を目指す生産者を対象に、指導者が初回面会時に使用する「経営概況調査票」と「年間スケジュール表」を作成し活用している。指導者が経営概況と作業工程を把握でき、効果的な支援を行うことができた。

1 経営概況調査票

資材、所有機械、雇用状況など、認証に必要な情報と認証基準の適合状況を把握し改善が必要な点を明確にできる。

2 年間スケジュール表

作業工程が月ごとに整理できることと認証決定日(年4回)を併記したことで「いつまでに何をすべきか」を明確にし、認証に向けた準備のタイミングを把握しやすくしている。



指導先の概要

GAP の種類：美味しまね認証（島根県 GAP 認証制度）

認証の取得年：

品 目 名：

面 積：

※新規取得を目指す
複数経営体で指導



島根県観光キャラクター「しまねっこ」島観連許諾第1830号

®

活動、指導のポイント

・2つのシートを活用することで、認証取得に向けた準備が効率化し、指導の質を向上させることができる。

・経営概況調査票

資材管理の改善点、作業記録の不足、機械設備の整備状況、雇用管理の課題など、現状の問題点を明確にでき、記録の不足や基準との差異を早期に発見でき、優先順位をつけた改善指導が行いやすくなる。

・年間スケジュール表

生産工程を時間軸で整理することで、工程を実感しやすく、作業の標準化や工程見直しの必要性が理解できる。特に認証決定日（年4回）を明記したことで、認証準備を計画的に進められ、生産者と指導者が共通の目標時期を意識した取り組みがしやすくなる。

・まとめ

この結果、認証取得までの準備期間の短縮や取組の質が向上し、生産者の意欲向上や自立な管理体制の構築にも大きく貢献することができる。



聞き取り調査



社員全員でリスク評価、準備



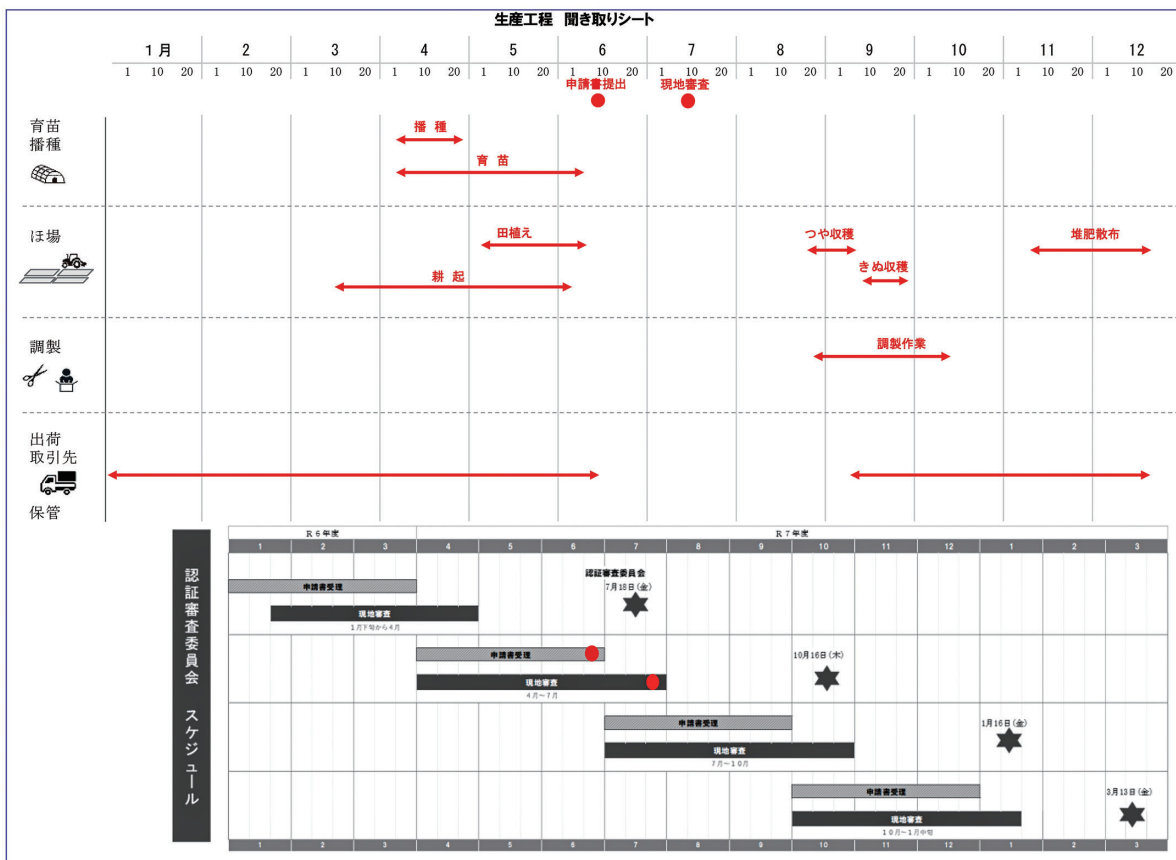
認証取得

PDCA → より良い農場に

農場名: **しまね農園 鳥根太郎**

1 栽培、資材	
品目 (品種)	米 (わや姫、きぬむすめ)
面積	〇〇ha
種苗	購入 (種子・苗) 育苗 (有・無)
堆肥	使用 (有・無) 管理 (有・無)
肥料	使用 (有・無)
農薬 (保管庫)	使用 (有・無) 保管庫 (有・無)
水	手洗い、農薬希釈 かん水、機械洗浄 水道水 河川 井戸 パイプライン ため池 その他 () Point: 用途ごとに記入
燃料	ガソリン 混合油 軽油 灯油 重油 その他 ()
2 経営管理	
作業の外部委託	JA堆肥センター (株)〇〇ファーム 育苗 堆肥散布 農薬散布 収穫 調製・出荷 輸送 その他 ()
救命講習	資格 有・無 ○月〇日受講予定
作業者	家族 知人、友人 御礼にビール 正社員 パート、アルバイト 季節労働、スポット Point: 賃金支払いがあるか ※事務職員を含む ※集落営農法人の場合 構成員のみ 構成員以外の雇用あり
認証品と非認証品が混ざるか	混ざる 混ざらない
記録書類 (既存分)	カレンダー 作業日誌 米出荷伝票 記録アプリ
使用する農業機械	25PS 5条 4条 トラクター 田植機 コンバイン 乾燥機 籾すり機 米選機 色選機 フォークリフト 刈払機 自走式草刈機 バックホウ
消火器	有・無
救急箱	有・無

経営概況調査票(記入例)



年間スケジュール表(記入例)



「令和6年度 GAP 指導事例」はコチラ

